

令和8年度山形市森林整備推進協議会議事録

- ・日時 令和8年7月22日（水）午後2時00分～
- ・場所 山形市役所10階 委員会開催室

・出席者

森林整備推進協議会委員12名

安部雄祐委員、平間利一委員、浅黄博美委員、志田ふみ委員、會田幸子委員、多田千尋委員、佐藤良造委員、浅野弥史委員、白壁洋子委員、新関文子委員、山口孝委員、黒田誠一委員

事務局8名

石岡農林部長、高橋森林整備課長、三沢課長補佐、吉田林政係長、加藤森林整備係長、片桐林道係長、林主任、菊地主事

- ・傍聴者 なし

- 1 開会
- 2 委員並びに職員紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 協議

（1）令和8年度森林整備課の事業概要について

⇒資料1に基づき、事務局より説明。

==質疑応答==

【委員】

- ①幼児への積み木贈呈事業では、積み木を配る際、保護者に対して木を使うことの大切さを説明しているのか。
- ②木材利用の温暖化防止機能、森林整備についてもっとPRしてほしい。
- ③CO2固定量認証事業で、どの程度CO2を固定しているのか、その取り組みが地球温暖化防止へどのように貢献しているのかを可視化していく必要があるのではないか。

【事務局】

- ①積み木贈呈の際には、森林整備課の職員が直接配っているわけではないが、その担当者が、木材利用の普及のため、ペにうっどのチラシを一言添えて配布している。
- ②木材利用の温暖化防止のPRとして、HPに記載しているが、わかりづらいところもあるため、事業関係の取組をわかりやすく広く周知していきたい。
- ③新築住宅のCO2固定量認証については、木材の使用量からCO2の固定量を数値化し、明確化した上で、住宅の施主に渡している。

【委員】

- ①住宅の建築件数が昨年度から大幅に落ち込んでおり、家が建つ見込みがなくなってきている。一番大事なのは木材の使用量で、棟数が減っている中で、一棟あたりの量を増やしていく必要がある。今の状況にあった支援策を考えていく必要があるのではないか。
- ②今は昔と比較して、家づくり支援の補助金額の魅力がなくなっている。こちらも現状に合わせて補助金額や支援制度の見直しが必要であるのではないか。
- ③大手工務店は国産材使用率が増加し、それに伴って杉材の使用量も増加している。一方で、地場工務店での国産材の使用率が依然として低いため、今後地場工務店での国産材の利用を促進し、使用率を向上させる必要がある。ただ、国の支援は大手を手厚くし、地元への支援が届きにくくなっている。地場工務店への木材の供給を増やさないと、安心して木を伐採することができない。山形市産材集成材制作事業に続く新たな政策を作り、安心して木を伐採できる環境を作っていただきたい。

【事務局】

- ①②④ ページにある市産材拡大利用検討会議が7月14日に開催され、環境貢献市産材支援家づくり事業の現状の確認と拡大の内容について、14日に意見等をもらっている。この後の資料2の中で、14日の会議を受けた、環境貢献市産材支援家づくり事業の拡大の検討、今後の対応を協議いただく予定である。山形市としても住宅の厳しい状況を踏まえたうえで、検討していきたい。
- ③国や県の進め方や対応を踏まえたうえで、検討していきたい。

【委員】

8月に開催予定の木工教室では、現在、材料として各業者がおのの持ち込んでいる集成材を使用しているが、木材本来の良さを実感してもらうため、ベにうっどを活用できないかと考えている。無垢材の提供や購入に関して、山形市による支援制度はあるか。

【事務局】

木を使う事業をしてもらえるのはありがたい。今後、どこまで山形市で支援できるのかを検討していきたい。14日の会議でも木工教室の話があり、さまざまな方が来場する機会であることから、ベにうっどのチラシを置いてPRを行うと良いのではというアドバイスをいただいた。山形市においてチラシを作成するため、ぜひ会場に設置していただけるとありがたい。

【委員】

里山さわやかロード事業を行う中で、鳥獣被害が深刻化している状況にあるが、事業を行う中でクマ対策などの安全対策をどのように行っているのか。

【事務局】

基本的に活動内容は各地区の住民が計画し、その計画に基づいて実施している。活動内容については、各地区の自主性に委ねられていることから、市が一方的に活動の中止を通知することはないが、昨年度はクマに関する相談が寄せられていることも事実であるため、今後はクマの出没状況や地域の安全面を踏まえながら、適切に対応していきたい。

(2) 新規事業への取組みについて

⇒資料2に基づき、事務局より説明。

==質疑応答==

【委員】

林道のDX化を今年で一気に進めることは難しいと思うが、どのようなスケジュールで進めていくのか。

【事務局】

林道のDX化は以前から検討を進めていたものだが、予算等の関係もあり一気に進めることはできない。利用頻度、重要箇所の選出から必要なところの順位付けをし、DX化を進めていきたい。スケジュールについては現段階で明確にお示しすることはできない。

5 山形森林管理署からの情報提供

森林・林業基本計画及び全国森林計画の変更概要について

⇒資料に基づき、山形森林管理署長より説明。

==質疑応答==

【委員】

①今回の計画は前回よりわかりやすくなったとはいえ、計画自体がわかりにくいことには変わらない。計画は国の視点が中心となっており、国と県、市町村がどのように連携して取り組むのかが十分に示されていない気がする。

②国は生物多様性の保全に向けた取り組みを進めてきたが、実際の森林現場でその考え方が十分に反映されているかについては疑問が残る。生物多様性を高める森林づくりが行われている森林の割合が、令和6年で2割に達しているというのは、想像以上の数値で驚いている。また、地域の森林の現状や課題についてより分かりやすく発信していく必要があるのではないかと思う。今後は、木を伐採すると同時に、適切な再造林を実施し、生物多様性に配慮した森林づくりを進めないと日本の森林環境は悪化していく可能性がある。

【山形森林管理署長】

①国の計画変更を踏まえて市町村の計画が修正される。どれくらい国の計画変更が盛り込まれるかは市町村によって変わってくる。段階を踏まえて、施策が行われていく。

②沢沿いの森林を皆伐しない、国有林の5ha以上の大区分の伐採をしないなど、既に国で行っていることを民有林でも進めていく。今回の計画では、より多様性を重視した施策が国有林だけでなく民有林でも進めていくといった内容になっている。

6 閉会